

モノ作りを支える黒子

豊田通商株式会社
鋼板部
自動車鋼板第2グループ

やま ざき きみ ゆき
山 崎 公 之



1. 鉄を扱う

『鉄は国家なり』『ものづくり日本』をこまめに身近に感じることができるとは。現在の部署に配属されたときの第1印象です。入社以来5年間、自動車用鋼板を扱う仕事に携わってきました。豊田通商は「豊田スチールセンター」(TSC)というコイルセンターを保有しており、私の所属する鋼板部は5年前から名古屋の本社ビルを離れTSCに移駐しました。より現場に近いところで、現場とともに仕事をする道を選んだのです。私は、移駐の先遣部隊に配属されました。今は立派な建物がありますが、当時はプレハブで仕事をしていて、冬は強烈な浜風がすき間から吹き込み、鉄コイルを積んだトレーラーが走り抜けるたびに建屋が大きく揺れていましたね。商社に特別な印象を持っていたわけではなかつ



豊田スチールセンター

たのですが、ドラマに出てくるようなきらびやかなビルで働くというイメージからは遠くかけ離れていました。

「鋼板」を扱って難しいと感じたところは、商品に愛着を持ちにくいという点です。入社後の2年間は「鉄がどのようにつくられ、どのように加工/運搬され、何に使われるのか?」を徹底的にたたき込まれました。そのおかげか、今では随分商品知識を得ることができ、鉄のことを好きになりました。自動車を見ればもちろんのこと、街で見かける鉄製品を見ると、思わず触ったり、たたいたりしてしまいます。

2. 顧客の信用

現在の仕事は、高炉メーカーから鉄を仕入れ、トヨタ関連の車体メーカー・部品メーカーへ納入することです。トヨタ関連車は日本国内で毎月30万台以上生産されており、ご存知のとおり「かんぱん方式」での納入が基本です。言葉にするとあまりにも簡単な「顧客が必要とする品物を、必要なときに、必要な量だけを納入する」。日々細心の注意と緊張を要する仕事です。そんな緊張感の続く毎日に逃げ出したくなるときも当然あります。ただ、「かんぱん」からは逃げることはできない、逃げれば顧客の信用も逃げてしまうことを、身を持って体験している。これが執念・執着を生んでいると思います。

身を持って体験したことと言えば、今年の

「新日鐵の火災事故」のときのこと。突発事故には弱いとされているかんばん方式にもかかわらず、高炉・顧客・商社が一丸となって自動車生産ラインをつないだ。1ヵ月間は会議室が仮眠室になりました。ただ、仮眠を取れる人はいなかったですが…。当時強烈に感じたことは、高炉・顧客が自分たちを頼ってくれた。それに対してできたことと言えば、今までやってきたことをやり通したにすぎません。しかし、「やっぱり豊通さんがいないと困るなぁ」と言われ、本当に嬉しかった。現在、取引先の多くは言わずと知れた大会社ばかりで当然受発注システムも最先端。商社なんてなくてもいい、そう思われても仕方のない世界でもあります。それだけに、日々やっていることを認められた経験は非常に感激を感じるものでした。

心がけている一つとして、悩んだときは現場に行くようにしています。前述したように、われわれは現場を持っており、現場のすぐ近くで働いています。いつでも現場に行ける。悩んだら、現地・現場に足を運び、現実を学ぶことができるのです。結局何が必要とされているのか？何ができるのか？をとことん詰めることができる。「机上の空論」とはよく言ったもので、裏付けのない理論・提案は説得力に欠けます。説得力があるから顧客も賛同してくれ、結束力が生まれる。それが自信につながっている。最近感じることは、われわれの仕事は鉄を納入して終わりではないということ。素材である「鉄」がいろいろな部品と組み合わせたり、「くるま」になる。一番川上の仕事をすることで、川下につながっている。点だけでなく、線として今の仕事を捉えることができるようになってきました。

3. 人として

プライベートの時間は、スポーツをして汗を流すようにしています。また、できるかぎり家族と過ごすようにしています。ちょうど1歳に



鋼板コイル（豊田スチールセンターにて）

なる息子がいますが、成長の速さに驚かされます。生まれたてのときと比べて、身長で1.5倍、体重で3倍以上増えました。写真を見てもかすかに面影が残る程度。逆に「自分はどうなんだ？この1年でしっかり成長したのか？」と自問自答する毎日。子供は毎日毎日、一瞬一瞬に起こる出来事が初体験のことばかり。経験を常に蓄積し、糧としているように思えます。常に変化に対応し、進化し続けている。早速、頭が上がりなくなってしまいました。

子供ができて変わったことは、自分中心から周囲の人中心で考えられるようになったこと。仕事も自分だけのものではないと考えるようになりました。例えば、「車をつくる」ということは雇用を生み、多くの人の生活を豊かにするものです。自分が働くことで、他人も働くことができ、お互い心身ともに豊かになれる。くさいと思われるでしょうが、世界を幸せにしたい。これからの子供達のためにも。大切な時間を仕事に費やすのですから、このぐらいの気持ちを持って臨んでいきたい。「ひととして生きる」人間でいたい。結局は、「かっこいい親父」と思われたいだけなのかもしれません。

豊田通商はご承知のとおりトヨタグループです。製造業DNAと商社DNA、2つを持つ会社は他商社にはない社風でしょう。他社には真似のできない商売を通じ、人とふれあい、喜び・悲しみを共有したい。もちろん日本だけに限らず世界中の人と。これからも、進化し続ける創造力を持ち続け、地に足をつけて自らを磨き、商人として生きていこうと思います。